

鶏肉需給等関係資料

(1) 需給動向

○ 鶏肉需給の推移

(単位：千トン、%)

年度	2	7	13	14	15	16	17	18	19	20	21
消費量	1,678 (▲1.1)	1,781 (2.9)	1,758 (0.5)	1,744 (▲0.8)	1,706 (▲2.2)	1,615 (▲5.3)	1,684 (4.2)	1,733 (2.9)	1,729 (▲0.2)	1,752 (1.4)	1,782 (1.7)
生産量	1,380 (▲2.6)	1,252 (▲0.3)	1,216 (1.8)	1,229 (1.0)	1,239 (0.8)	1,242 (0.2)	1,293 (4.1)	1,364 (5.5)	1,362 (▲0.2)	1,395 (2.4)	1,413 (1.8)
輸入量	297 (0.3)	542 (10.3)	566 (▲1.0)	508 (▲10.3)	442 (▲12.9)	371 (▲16.1)	443 (19.5)	347 (▲21.7)	368 (6.1)	426 (15.6)	336 (▲21.0)
期末在庫	49	103	131	120	93	90	141	117	113	154	116

資料：農林水産省「食料需給表」、財務省「日本貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「食肉の保管状況調査」

注1：21年度は年次ベース。

2：()内は対前年度増減率。

3：輸入量は実量ベースで家きん肉を含む。

○ 鶏肉の国別輸入量

(単位：千トン、%)

年度	合計		うち中国		うちタイ		うち米国		うちブラジル	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
平成7	529	111	192	129	109	93	126	100	97	122
12	555	100	235	108	125	96	85	88	108	103
13	556	100	163	69	176	140	72	85	142	131
14	495	89	122	75	167	95	50	68	153	108
15	430	87	43	36	146	88	41	83	194	127
16	365	85	0.9	2	0.07	0	32	77	323	167
17	433	119	0.8	84	0.05	78	28	90	394	122
18	340	78	0.4	55	0.01	21	27	95	308	78
19	362	106	0.1	25	0.00	26	23	86	333	108
20	420	116	0.1	117	0.00	—	22	94	392	118
21	343	82	0.1	92	—	—	23	104	315	80
22(4-7)	144	124	0.1	275	—	—	10	156	132	122

資料：財務省「日本貿易統計」

注：輸入量は実量ベースで、鶏以外の家きん肉は含まない。

鶏肉の消費量については、これまで食生活の高度化、多様化、外部化等により着実に増加してきたものの、近年は、ほぼ横ばいで推移している。16年1月以降は国内外での高病原性鳥インフルエンザ発生の影響を受け減少傾向。17年度以降は回復傾向で推移しており、21年度は、対前年度比1.7%増となった。

国内生産量は、小規模飼養者層の減少や輸入鶏肉の増加等により概ね減少傾向で推移したが、国産肉志向の顕在化等により13年度以降、概ね横ばいないし増加傾向で推移。21年度は、低価格志向の高まり等を反映して対前年度比1.8%増となった。

輸入鶏肉については、これまで業務用需要の伸び等から中国を中心に増加傾向で推移してきたが、14年度は平均水準を大きく上回る輸入在庫の整理により、大幅な減少傾向で推移。さらに16年1月以降はタイ、中国、アメリカ産家きん肉輸入一時停止の影響で大幅な減少。17年度は、ブラジル産の輸入増加により前年度を19%上回ったものの、輸入在庫が大幅に増加したこと等から、18年度以降は再び大幅な減少傾向で推移した。20年度は、国産品の卸売価格が堅調であったため、市場の品薄感からブラジル産の輸入が増加し平均水準を大きく上回ったが、21年度は、輸入在庫の大幅な増加や景気の低迷等により前年度を18%下回った。

22年度(4-7月)は輸入在庫水準が下がったため、増加傾向で推移している。

○ 鶏肉調製品の国別輸入量

(単位：千トン、%)

年度	合 計		うち中国		うちタイ	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
平成 7	56	141	19	185	25	132
1 2	163	137	97	149	48	117
1 3	193	119	114	118	64	133
1 4	220	114	142	125	73	115
1 5	203	92	114	80	83	113
1 6	272	134	143	126	122	147
1 7	338	124	185	130	149	122
1 8	346	103	196	106	149	100
1 9	339	98	193	99	144	97
2 0	311	92	122	63	186	129
2 1	313	101	140	115	171	92
2 2 (4-7)	130	123	63	134	66	114

資料：財務省「日本貿易統計」

注：輸入量は実量ベースで、12年度以降は鶏肉以外の家きん肉調製品を含まない。

鶏肉調製品については、中国、タイを中心に増加傾向で推移してきたが、15年度は16年1月のタイ、中国での高病原性鳥インフルエンザ発生による輸入一時停止の影響で減少した。その後、タイ、中国については、我が国が指定した加工施設で加熱処理された鶏肉調製品の輸入が認められたことから、両国からの輸入が鶏肉から鶏肉調製品にシフトした結果、18年度は、鶏肉調製品の実量ベースで鶏肉をわずかに上回った。20年度は、中国産ギョーザ問題の影響から中国からの輸入が大幅に減少した。

21年度も、対前年同期とほぼ同水準で推移したが、22年度(4-7月)は増加傾向で推移している。

(参考)

○ 主要国における鶏肉生産量及び輸出量

(単位：千トン、%)

		2005	2006	2007	2008	2009	前年比	2010	前年比
						(見込)		(推計)	
アメリカ	生産量	15,870	15,930	16,226	16,561	15,935	96	16,300	102
	輸出量	2,360	2,361	2,678	3,157	3,100	98	2,642	85
中 国	生産量	10,200	10,350	11,291	11,840	12,100	102	12,550	104
	輸出量	332	322	358	285	291	102	300	103
ブラジル	生産量	9,350	9,355	10,305	11,033	11,023	100	11,420	104
	輸出量	2,739	2,502	2,922	3,242	3,222	99	3,350	104
EU-27	生産量	8,169	7,740	8,320	8,594	8,660	101	8,700	100
	輸出量	696	689	635	742	783	106	770	98
タ イ	生産量	950	1,100	1,050	1,170	1,200	103	1,240	103
	輸出量	240	261	296	383	379	99	410	108
日 本	生産量	1,166	1,258	1,250	1,255	1,255	100	1,265	101
	輸出量	2	2	6	7	9	129	10	111
世 界 計	生産量	63,120	64,329	68,297	71,482	71,760	100	73,923	103
	輸出量	6,828	6,552	7,381	8,413	8,450	100	8,182	97

資料：USDA“Livestock and Poultry:World Markets and Trade”

主要国の生産量及び輸出量は、ともに近年横ばいしない増加傾向で推移。特に中国、ブラジル、タイにおける増加が顕著となっている。

(2) 消費動向

○ 肉類の年間1人当たり消費量

(単位：g、%)

年度	鶏肉		牛肉		豚肉	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
2	3,645	97	3,082	103	4,840	99
7	3,591	102	3,612	101	4,705	102
13	3,672	103	2,340	76	5,180	105
14	3,709	101	2,499	107	5,243	101
15	3,517	95	2,410	96	5,222	100
16	3,567	101	2,253	94	5,407	104
17	3,710	104	2,268	101	5,493	102
18	3,884	105	2,219	98	5,539	101
19	4,021	104	2,213	100	5,703	103
20	4,123	103	2,159	98	5,924	104
21	4,473	109	2,302	107	6,010	102
22(4-7)	1,423	102	715	99	1,919	98

資料：総務省「家計調査」

○ 消費構成

(単位：%)

年	鶏肉			牛肉			豚肉		
	家計消費	加工仕向	外食等	家計消費	加工仕向	外食等	家計消費	加工仕向	外食等
平成2	32	8	60	48	9	43	40	30	30
7	30	11	59	43	8	49	40	31	29
13	31	9	60	33	10	57	42	26	32
14	33	12	55	34	8	58	42	30	28
15	32	10	58	34	9	57	40	29	31
16	33	10	57	35	10	55	40	29	31
17	34	8	58	36	10	54	41	29	30
18	35	9	56	35	10	55	43	27	30
19	36	9	55	34	9	57	44	25	31
20	37	8	55	34	6	60	45	25	30

資料：生産局畜産部推計

鶏肉の年間1人当たりの家計消費量は、景気等の状況により年による変動はあるものの、概ね横ばいで推移してきた。15年度は、16年1月の国内外での高病原性鳥インフルエンザ発生等により減少したが、16年度には回復し、その後も増加傾向で推移している。

平成20年の鶏肉の消費構成割合は、家計消費が37%、加工・外食等が63%となっている。

(参考)

○ 主要国における鶏肉の年間消費量

(単位：千トン、%)

	2005	2006	2007	2008	2009		2010	
					(見込)	前年比	(見込)	前年比
アメリカ	13,430	13,671	13,582	13,428	12,933	96	13,661	106
中国	10,087	10,371	11,415	11,954	12,210	102	12,675	104
EU-27	8,082	7,656	8,358	8,564	8,589	100	8,650	101
ブラジル	6,612	6,853	7,384	7,792	7,802	100	8,071	103
メキシコ	2,861	3,010	3,061	3,281	3,272	100	3,307	101
ロシア	2,139	2,373	2,578	2,695	2,700	100	2,710	100
インド	1,899	2,000	2,239	2,489	2,549	102	2,649	104
日本	1,880	1,970	1,945	1,926	1,951	101	1,955	100
世界計	62,483	64,218	68,088	70,770	71,065	100	73,360	103

資料：USDA“Livestock and Poultry:World Markets and Trade”

(3) 価格動向

○ ブロイラー価格の推移

年度	卸売価格				小売価格	
	もも肉	前年比	むね肉	前年比	もも肉	前年比
	円/kg	%	円/kg	%	円/100g	%
平成2	563	110	432	109	108	102
7	551	103	270	88	107	98
13	609	100	263	137	120	104
14	649	106	205	78	125	104
15	549	85	211	103	124	100
16	584	106	231	110	123	99
17	576	99	242	105	123	100
18	560	97	208	86	123	100
19	645	115	254	122	126	102
20	672	104	325	128	135	107
21	614	91	205	63	128	95
22(4-7)	619	108	218	103	130	101

資料：日本経済新聞調べ、総務省「小売物価統計」

1) 卸売価格

もも肉価格は、15年度は下降傾向で推移する中、国内外での高病原性鳥インフルエンザ発生の影響により16年2月以降はさらに低水準で推移したが、4月以降は回復基調で推移。20年秋以降は在庫の増加等により軟調に推移した。

21年冬以降は、在庫量減少等により前年を上回る水準で推移していたが、22年春頃から軟調に推移している。

むね肉価格は、加工・業務用向けで競合関係にある輸入品（もも肉が大半）の増加等により、ほぼ一貫して低下傾向で推移してきた。16年2月以降は、タイ、中国産の家きん肉の輸入一時停止により加工・業務用の国産品に対する引き合いが強まり、前年を上回る水準で推移したものの、18年度は前年を下回って推移した。19年度は、輸入鶏肉価格の上昇等により国産志向が高まっていること等から、前年度を上回る水準で推移していたが、21年秋以降は軟調に推移した。

22年は6月以降、堅調に推移し、250円程度となっている。

2) 小売価格（もも肉）

小売価格は、13年度以降、120円台で推移してきた。20年度は、卸売価格の上昇を反映して堅調に推移していたが、21年度は在庫水準が高かったため、価格が低下した。22年度（4-7月）は130円程度で推移している。

(4) 経営動向

○ ブロイラー飼養戸数、羽数の推移

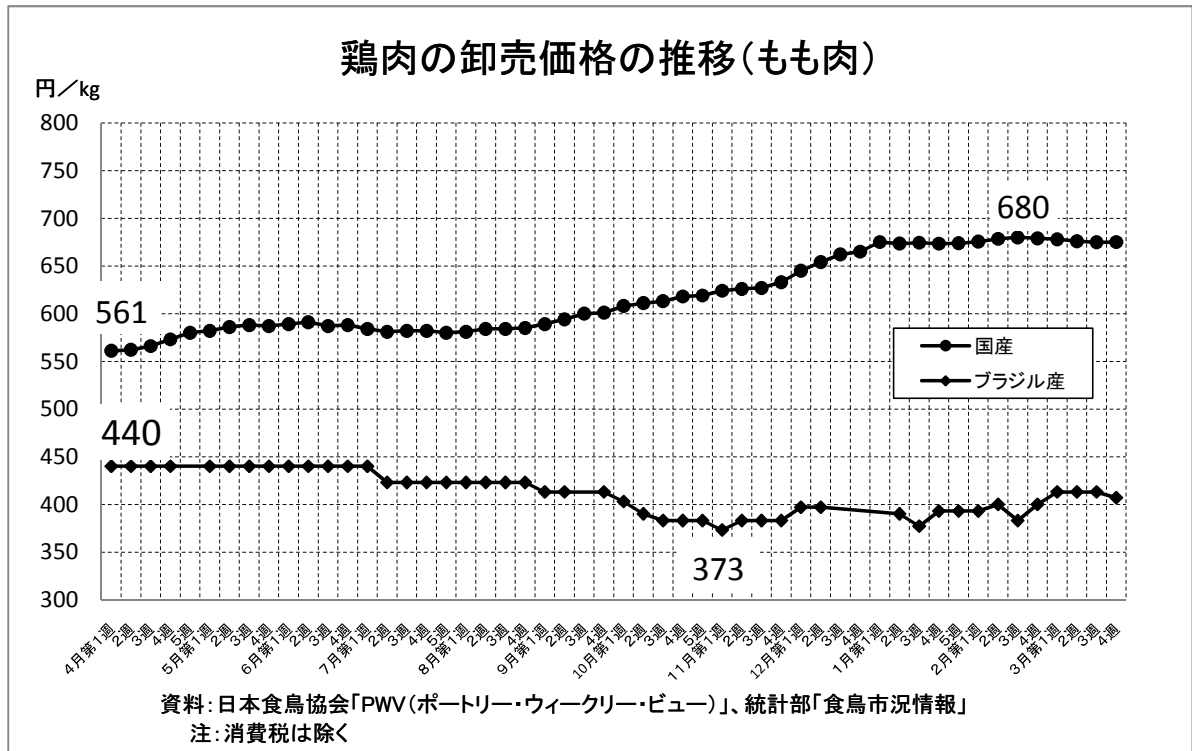
区分 / 年	平成2年	7	13	14	15	16	17	18	19	20	21
飼養戸数（戸）	5,529	3,853	2,986	2,900	2,839	2,778	2,652	2,590	2,583	2,456	2,392
（対前年増減率）	(▲5.2)	(▲6.7)	(▲3.1)	(▲2.9)	(▲2.1)	(▲2.1)	(▲4.5)	(▲2.3)	(▲0.3)	(▲4.9)	(▲2.6)
飼養羽数（千羽）	150,445	119,682	106,311	105,658	103,729	104,950	102,277	103,687	105,287	102,987	107,141
（対前年増減率）	(▲1.7)	(▲6.0)	(▲1.9)	(▲0.6)	(▲1.8)	(1.2)	(▲2.5)	(1.4)	(1.5)	(▲2.2)	(4.0)
出荷戸数（戸）	5,940	4,328	3,385	3,365	3,323	3,240	3,120	3,065	2,991	2,925	—
うち30万羽以上層 （戸数シェア）	303 (5.1)	312 (7.2)	356 (10.5)	387 (11.5)	391 (11.8)	387 (11.9)	422 (13.5)	419 (13.7)	447 (14.9)	467 (16.0)	—
出荷羽数（千羽）	708,308	606,494	567,876	586,045	595,283	589,957	606,898	621,820	622,834	629,766	—
うち30万羽以上層 （出荷羽数シェア）	212,521 (30.0)	213,566 (35.2)	242,000 (42.6)	260,640 (44.5)	269,553 (45.3)	269,621 (45.7)	292,238 (48.2)	304,052 (48.9)	314,027 (50.4)	324,672 (51.6)	—
1戸当たり平均 飼養羽数（羽）	27,200	31,100	35,600	36,400	36,500	37,800	38,600	40,000	40,800	41,900	44,800
1戸当たり平均 出荷羽数（羽）	119,200	140,100	167,800	174,200	179,100	182,100	194,500	202,900	208,200	215,300	—

資料：農林水産省「畜産物流通統計」

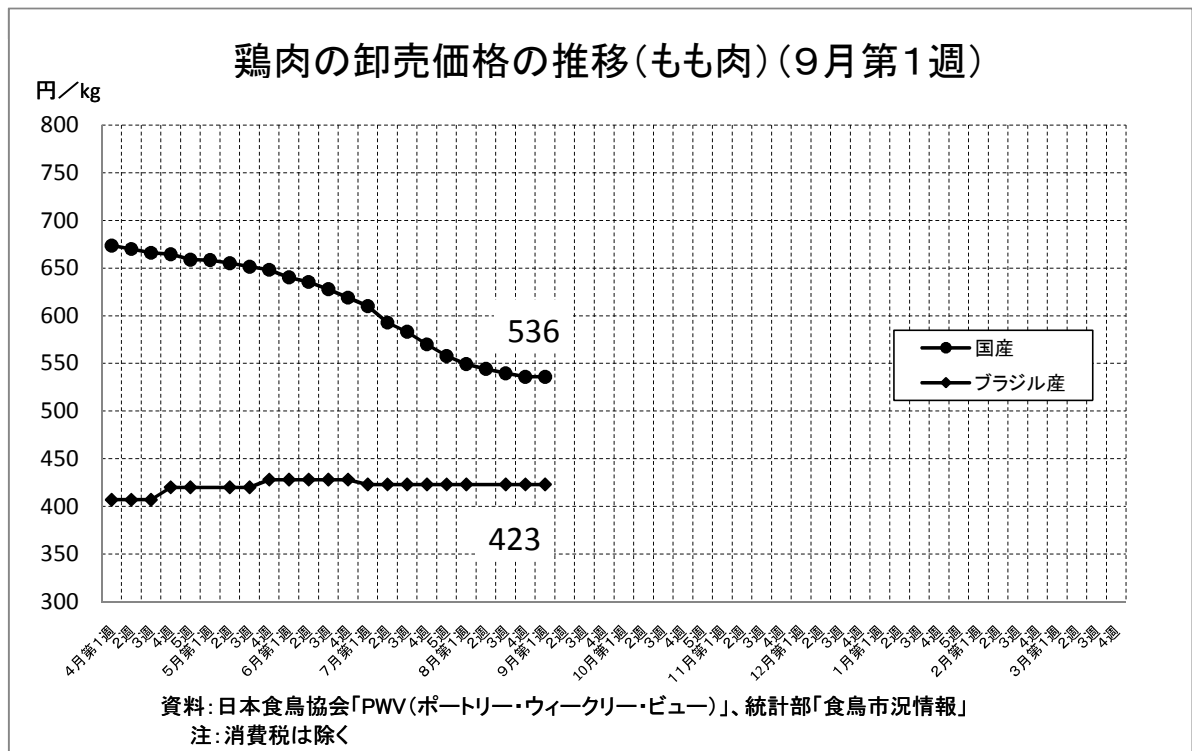
注：飼養戸数、羽数は各年2月1日現在。

飼養戸数が減少傾向で推移する中、飼養規模の拡大は着実に進み、特に年間出荷羽数30万羽以上の飼養者層のシェアは、戸数、羽数ともに拡大しており、出荷羽数については50%以上にまで拡大。

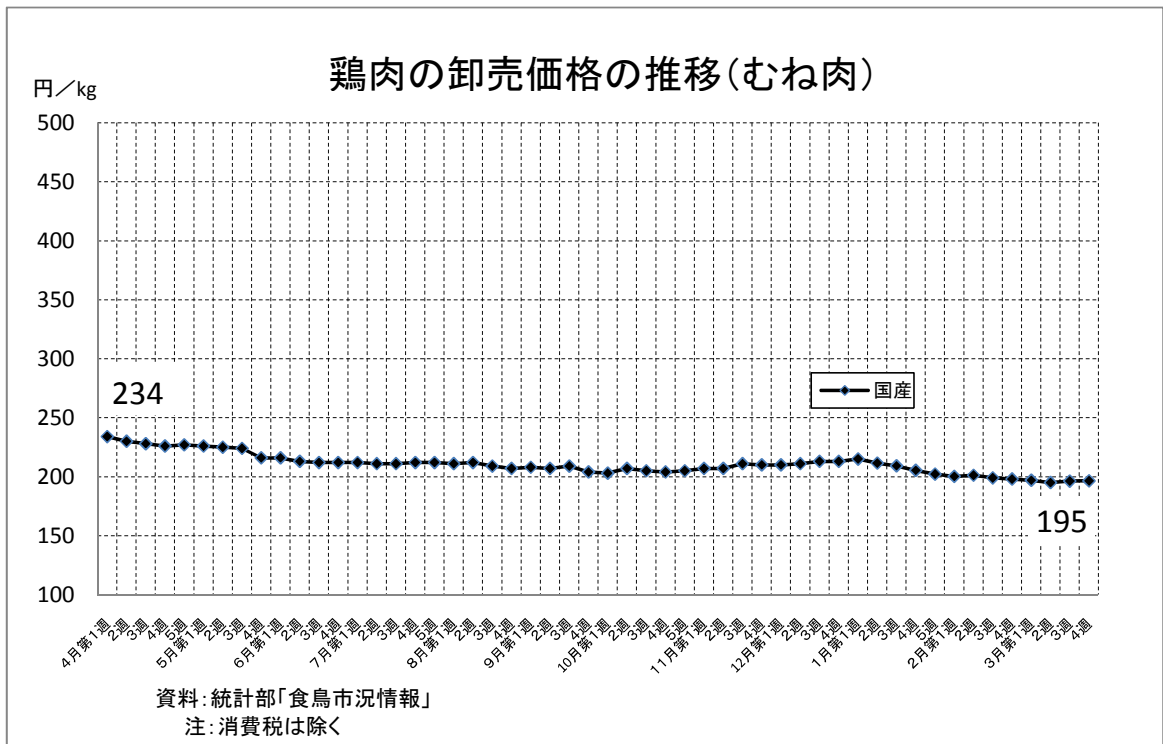
21年度



22年度



21年度



22年度

